

○水生生物モニタリング調査結果一覧（阿武隈川河口沖K）

＜阿武隈川河口沖K 水質底質採取項目＞

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
K-1	○	○	○	○	○	○
K-2	○	○	○	○	○	○
K-3	○	○	○	○	○	○

＜阿武隈川河口沖K 現場測定項目＞

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質					その他	
	緯度	経度	日	時刻(水)	時刻(泥)	水温(℃)	泥温(℃)	性状	色相	混入物	全水深(m)	透明度(m)
K-1	38.0456°	140.9285°	H26.12.11	—	9:17	—	13.1	細砂	5Y3/2	なし	—	—
K-2	38.0456°	140.9403°		8:05	8:30	11.2	12.5	細砂	7.5Y3/1	稚貝	17.1	4.7
K-3	38.0459°	140.9520°		—	8:52	—	12.7	砂混シルト	10Y3/1	なし	—	—

＜阿武隈川河口沖K 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
K-2 (表層)	38.0456°	140.9403°	H26.12.11	8:05	8.1	<0.5	1.5	9.4	4,620	29.60	0.9	2	1.5	0.0028	0.010	—
K-2 (下層)				8:10	8.0	<0.5	1.5	8.5	5,100	33.51	0.9	5	1.3	0.0032	0.010	0.00096

＜阿武隈川河口沖K 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成								Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)			
K-1	38.0456°	140.9285°	H26.12.11	9:17	7.7	196	21.7	1.4	0.7	2.751	0.0	6.2	59.3	28.6	2.0	3.9	0.36	2	14	49	—
K-2	38.0456°	140.9403°		8:30	7.6	194	33.1	2.9	1.8	2.723	0.0	0.0	1.4	67.6	10.2	20.8	0.12	2	33	98	N.D. (0.20)
K-3	38.0459°	140.9520°		8:52	7.6	34	47.0	6.9	12.4	2.679	0.0	0.1	0.2	25.7	35.6	38.4	0.018	2	130	420	—

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜阿武隈川河口沖K 分析項目 水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	種名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			Cs-134 (Bq/kg-wet)	Cs-137 (Bq/kg-wet)	Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	胃内容物	測定部位			
阿武隈川河口 周辺海域	—	—	—	H26.12.11	脊椎動物	硬骨魚	カサゴ	ゴチ	<i>Platycephalus</i> sp.	マゴチ	1	0.47	成魚(3歳)	魚類	内臓除去	0.52	2.8	—
							カレイ	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>	ヒラメ	1	3.7	成魚(6歳)	空胃	内臓除去	1.5	4.9	N.D. (0.019)
							スズキ	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	マハゼ	2	0.025	成魚(1歳)	ヨコエビ	内臓除去	N.D. (1.8)	2.6	—

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓(胃、腸)の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：成長段階の赤字記載は、鱗または耳石による年齢査定の結果を示す。

※6：プランクトン(浮遊藻類)とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※7：河床付着物(藻類を含む)とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※8：N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※9：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。